



タデスミレ 87.5.30 松本市

信州のスミレ

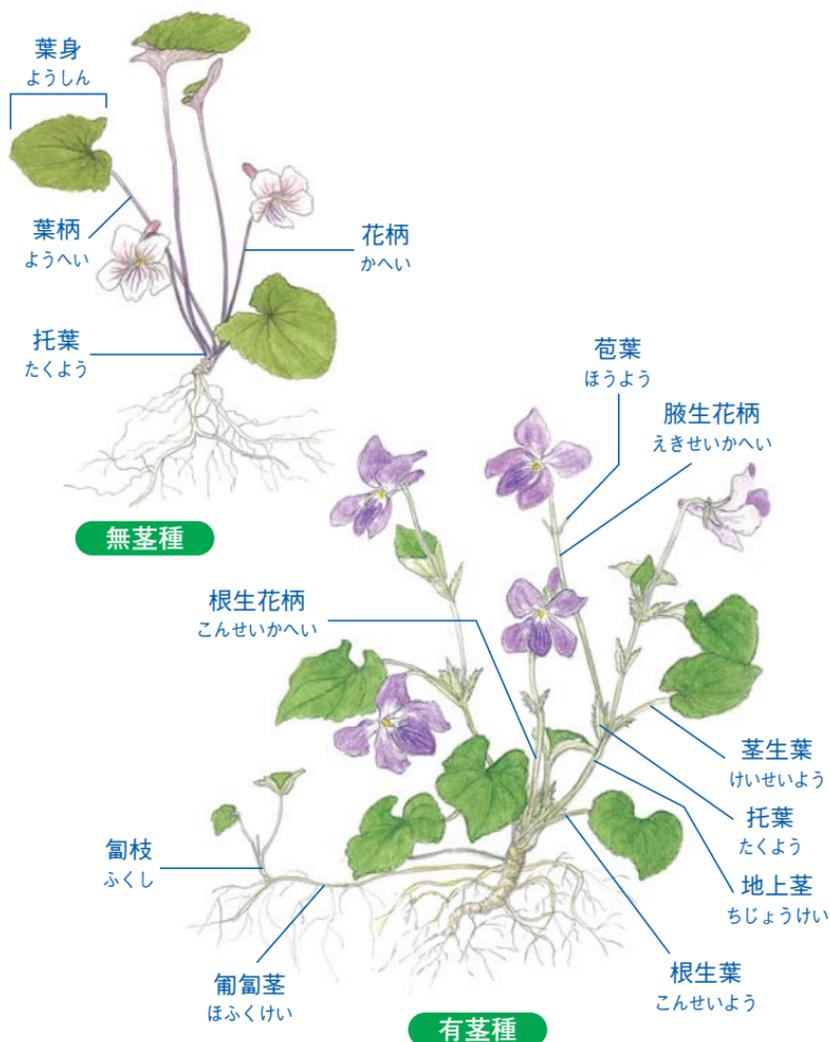
今井建樹・伊東昭介 共著

ほおずき書籍

もくじ

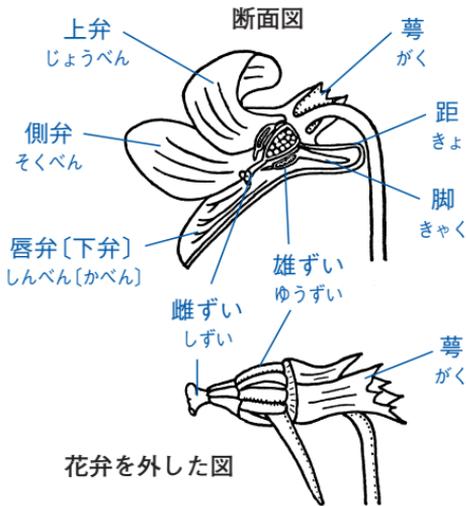
はじめに	
本書の構成と活用について	3
各部の名称	5
長野県全図	8
信州のスミレ検索表	9
基本種① 地上茎のないスミレ	15
スミレサイシン節	16
ウスバスミレ節	24
ミヤマスミレ節	26
基本種② 地上茎のあるスミレ	59
タチツボスミレ節	60
ニオイスミレ節	83
ニョイスミレ節	86
オオバタチツボスミレ節	90
キスミレ節	91
キバナノコマノツメ節	93
信州の自然雑種	97
無茎種	98
有茎種	154
雑種早見表	160
外来のスミレ	161
学名索引	166
和名索引	169
あとがき	

各部の名称

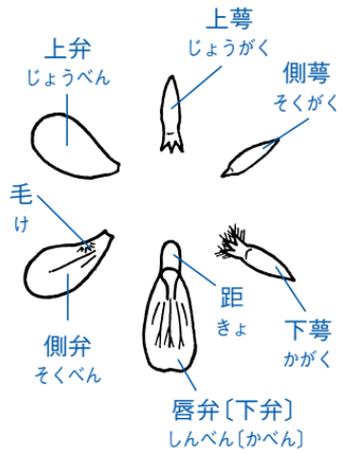


植物画：久保やす子

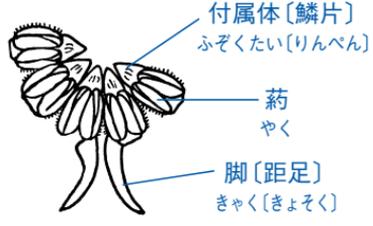
花の分解・各部



花弁と萼片

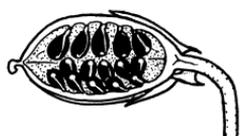


雌ずい〔めしべ〕



雄ずい〔おしべ〕

果実(蒴果)



断面図



裂開した果実

浜栄助著『原色日本のスミレ』(誠文堂新光社)を参考に作成

葉の形

円形
えんけい



腎形
じんけい



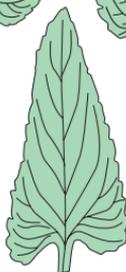
心形
しんけい



卵形
らんけい



長卵形
ちょうらんけい



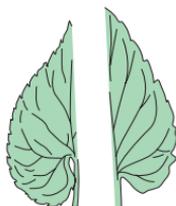
三角状披針形
さんかくじょうひしんけい

披針形
ひしんけい



斑入葉
ふいりば

縁の切れ込み方



鋸歯
きよし



浅裂
せんれつ



中裂
ちゅうれつ



深裂
しんれつ

葉先の形



円形
えんけい



鈍形
どんけい



鋭形
えいけい



鋭先形
えいせんけい



尾状鋭先形
びじょうえいせんけい

葉の基部の形



円形
えんけい



心形
しんけい



切れ形
きれがた



楔形
くさびがた



矢じり形
やじりがた



沿下(翼)
えんか(よく)

信州のスマレ 検索表

花冠の大きさは個体により幅があるので概ね次による→大形（15～25mm）・中形（12～20mm）・小形（13mm以下）。種名の前の番号は本書の掲載番号。

1. 地上茎はない。

2. 葉に切れ込みはない。

[スマレサイシン節]

3. 花は大形で紫色～薄紫色～白色、側弁は無毛。

4. 葉は広卵状心形、先が尖り無毛。地下茎は太く長い。

…………… 1. スマレサイシン

4. 葉は三角状長卵形～長卵状披針形、無毛か少毛。地下茎はやや太く長い。

…………… 4. ナガバノスマレサイシン

3. 花は大形の紅紫色～淡紅紫色～暗紅紫色～白色、側弁は有毛～無毛。葉は円状心形、両面に散毛がある。地下茎は太くて長い。

…………… 2. アケボノスマレ

3. 花は中形の白色で紫条があり、側弁は無毛。葉は広卵状心形、両面に毛がある。地下茎はあまり太くない。

…………… 3. ヒメスマレサイシン

3. 花は小形で白色、側弁は無毛または有毛。地下に匍匐茎を出す。

4. 葉は円状卵形～広卵形、両面とも少毛。

…………… 5. シコクスミレ

[ウスバスマレ節]

4. 葉は円状心形、両面とも無毛。針葉樹林に生育する。

…………… 6. ウスバスマレ

4. 葉は円状心形で薄く、表面は短毛を密生するが、裏面には少ない。高層湿原に生育する。

…………… 7. チシマウスバスマレ

[ミヤマスマシレ節]

3. 花は大形で濃紫色～淡紫紅色～白色、側弁は有毛。根茎は目立たない。
 4. 葉は長楕円状披針形、基部は沿下して翼に連続する。花は濃紫色、距は円筒形。根は褐色。 …… 8. スミレ
 4. 葉は小形で細く長楕円状披針形。花は濃紫色
…………… 8-2. ホコバスマシレ
 4. 葉は直立気味に斜上し、長楕円形～三角状楕円形、基部は切れ形。葉柄に翼はなく、全体に長い毛を密生する。花は濃紅紫色～紅紫色～白色、距は縦に扁平で長い。
…………… 14. サクラスマシレ
 4. 葉は円形～広卵形で両面とも多毛。花は白色の丸弁で縁は多少波状になる、距は丸い筒形。
…………… 17. マルバスマシレ
3. 花は中形で白色に紫条が入り、側弁は有毛。
 4. 葉は長楕円状披針形。葉身より葉柄が長い。
…………… 9. シロスマシレ
 4. 葉は心状円形～長卵形、表面は暗緑色、裏面は暗紅紫色～暗紫色、両面に微毛を密生する。花はやや淡紫色を帯びるものが多く、裏面の方が濃い。
…………… 12. ゲンジスマシレ
 4. 葉は卵形～長卵形で多毛。花弁は基部が狭く、距はやや太い円筒形。根の途中に不定芽をつけて発苗する。
…………… 16. ヒカゲスマシレ
3. 花は中形で濃紫紅色～紫色～白色、側弁は有毛、距は細長く短毛があり、子房にも毛がある。葉は円状卵形～長卵形、全体が多毛。
…………… 11. アカネスマシレ
3. 花は中形で濃紫色～紫色～淡紅紫色、側弁は無毛。
 4. 葉は長卵状披針形～三角状披針形で有毛。距は細長い。芳香をもつものもある。 …… 10. ノジスマシレ

- 4. 葉は卵形～長卵形～楕円形、無毛か少毛。花は淡青紫色～淡紫色、距は円筒形。……………13. コスミレ
- 4. 葉は卵形～長卵状披針形、縁は波状で両面とも無毛。花は淡紅色～淡紅紫色、花卉の縁も波状になる。……………15. ヒナスミレ
- 4. 葉は狭卵状披針形～長卵形、無毛か少毛、裏面は紫色。花は紅紫色、距は細長く上に反る。……………18. シハイスミレ
- 4. 葉は披針形～狭披針形。花は紅紫色、側弁は無毛、距は細長く上に反る。
 - 5. 葉の表面に光沢があり無毛。葉柄は斜上する。……………18-2. マキノスミレ
 - 5. 葉の表面は密毛でピロード状。葉柄は直上する。……………18-3. シナノスミレ
- 4. 葉は心形～広卵状心形で先が尖り、葉質は薄く有毛。鋸歯は粗い。花は明るい紅紫色、距は円筒形。……………20. ミヤマスミレ
- 3. 花は小形で白色、紫条が多い、側弁は有毛。
 - 4. 葉は卵形でやや水平に広がり、毛は少なく、裏面は紫色を帯びるものが多い。……………19. フモトスミレ
 - 4. 葉は心形～三角状心形で、基部や縁に毛があり、裏面は紫色を帯びるものが多い。……21. ヒメミヤマスミレ
 - 4. 葉は心状卵形～卵形で毛が多く、表面は緑色～暗緑色～紫褐色、裏面も淡緑色～帯紫色など変異があり、白斑・紫紅斑の入るものもある。萼片が反り返る。薄暗い環境に生育する。……………22. コミヤマスミレ
- 2. 葉に深い切れ込みがあるもの。
 - 3. 花はやや大形、紅紫色～白花、側弁は有毛。
 - 4. 葉は基部で3分裂し、各裂片はさらに分裂する。花後の葉は変異が多いが、裂片は残る。…23. エイザンスミレ



86.5.3 白馬村

1 **スミレサイシン** 堇細辛 *Viola vaginata*

日本海側深雪地帯に生育する。花は大形で普通淡紫色だが、濃淡の変異があり、白花もある。側弁は無毛。距は太く短い。葉は花期にはまだ開かないものもあり、左右から表面に巻いて出て、展開すると広卵状心形になり先端が鋭く尖り、両面ともほとんど無毛、基部の縁に少毛のものもある。

花期 4月下旬～5月中旬

分布 北部・中部／北海道
～本州の日本海側

開花期未開葉

開花初期は葉が巻いている。

87.4.24 白馬村





シロバナスミレサイシン

白花堇細辛

純白のもの、または白花に紫条のあるものをいう。

87.4.24 白馬村



ウスベニスミレサイシン

薄紅堇細辛

白花の感じだが、わずかに紅色がかっているものをいう。

03.5.14 小谷村



オトメスミレサイシン

乙女堇細辛

純白の花だが、距が紫色を帯びるものをいう。

03.5.14 小谷村



濃紅紫色花 88.5.2 岡谷市

2 アケボノスミレ 曙堇 *Viola rossii*

太平洋側内陸部の向陽地から半陰地に生育する。花色から夜明けの曙の空を連想して名付けられた。花は大形の丸弁。淡紅紫色～紫紅色と濃淡には変異がある。側弁基部は有毛から無毛もある。距は太くて短い袋状。花期には葉が展開せず基部が表面に巻いたものが多く、花後には円状心形に広がり、両面に微毛がある。

花期 4月上旬～5月中旬

分布 全県／本州～四国・九州

淡紅紫色花

花色に変異があり、淡紅紫色花のもの。

77.5.1 下諏訪町





シロバナアケボノスミレ

白花曙堇

純白のもの、または花弁にわずか紫条の残るものをいう。葉柄や花柄からも紅紫色が抜けて、黄緑色になる。

96.5.31 和田峠



クロバナアケボノスミレ

黒花曙堇

花は暗い紫紅色。葉柄や葉身も暗紫紅色のものをいう。

87.5.20 塩嶺峠



ベニバナアケボノスミレ

紅花曙堇

花は紅色で紅紫条がはつきり出る。従来黒くろ花ばなアケボノスミレとされていたが区別した。

86.5.2 下諏訪



90.6.2 松本市

シロバナエゾノタチツボスミレ 白花蝦夷立坪葎

白花で全体が小形のものをいう。花弁は丸みを帯びるものが多い。前述のエゾノタチツボスミレの白色花とは違い、草丈の短いものに名付けられた。

ケナシエゾノタチツボスミレ

毛無蝦夷立坪葎

全体に毛の無いもの、またはほとんど無毛のものをいう。葉は広卵状披針形～三角状披針形と極端に長くなる。個体数は少ない。

03.7.27 岡谷市





89.7.8 北アルプス

26 **アイヌタチツボスミレ** あいぬ立坪堇 *Viola sachalinensis*

本州では北アルプス以北に生育する。崩落地や草地の向陽地から半陰地にわすかに自生する。エゾノタチツボスミレの近縁と見られるスミレである。花は中形で淡紫色～紫色、タチツボスミレによく似ているが色の鮮やかなものが多い。側弁の基部は有毛。距は白色の筒形で、上部に溝がある。根生葉・茎生葉ともほぼ心形だが、根生葉には円心形のものが、茎生葉には広卵状心形のものがあり、表面が紫色を帯びるものもある。長野県版レッドリストでは「絶滅危惧ⅠA類」に属する。

花期 6月下旬～7月中旬

分布 北アルプスの高山／北海道・青森県・長野県



80.5.30 松本市

27

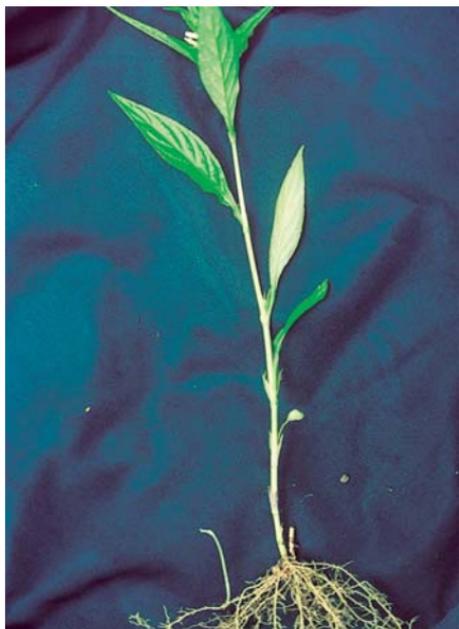
タデスミレ

蓼堇

Viola thibaudieri

花は中形の純白、側弁は有毛。距は短いずんぐり形でエゾノタチツボスミレ状に背後に溝がある。葉は名前のようにタデの葉に似た披針形で先端が次第に細くなり、基部も楔状に細くなるが、右ページのような〈狭葉型・広葉型〉の2型が見られる。長野県版レッドリストでは「絶滅危惧 I A類」に属する。

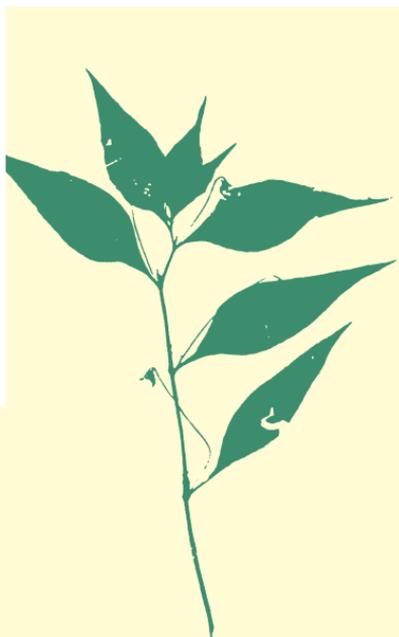
花期 5月下旬～6月上旬 **分布** 中部・東部／長野県の固有



根から発苗するタデスミレ

根に不定芽を生じ、幼苗がでている。

84.6.5 松本市



広葉型



狭葉型

狭葉型は向陽地に、広葉型は半陰地に生育している。

それぞれ1茎の上半分（6枚）の葉を比較したもの 単位：mm（平均値）

	長さ	最大幅
狭葉型	68～101 (88.5)	21～26 (23.8)
広葉型	63～112 (93.3)	22～37 (31.6)



花色の変化1

86.6.16 霧ヶ峰

両親の中間的、全体が紅紫色のもの

1 キリガミネスミレ 霧ヶ峰堇

Viola mandshurica × *V. patrinii*

スミレとシロスミレの雑種。59年霧ヶ峰で浜栄助が初見して名付けられた。花は中形～やや大形で、両親の中間的な色になる。ほとんど白色から紫色まで連続的である。側弁は有毛で、基部には紫色が残る。距は短い袋状で、シロスミレのような黄緑色に紫色を帯びるものが多い。葉は長楕円状披針形～披針形で両面に毛を密生するが、少ないものもある。花後の葉はスミレ状に基部が広くなり三角状披針形になる。

花期 5月中旬～6月中旬

花色の変化2

シロスミレがスミレの紅紫色を基部まで吸い上げた感じ。

02. 5. 31 霧ヶ峰



花色の変化3

白地に紫色を粗く染めた感じで、基部と紫条に濃紫色が残る。

88. 6. 16 霧ヶ峰

スミレ



シロスミレ



×



96.5.18 茅野市

2

アルガスミレ

有賀堇

Viola mandshurica × *V. hirtipes*

スミレとサクラスミレの雑種。60年に諏訪市で浜栄助が見出した。花は大形の濃紫色～濃赤紫色。側弁の基部には白い毛がある。距は濃紫色の円筒形である。葉は長楕円状披針形～卵状披針形で判別は難しいが、ややサクラスミレ状のものが多い。毛の状態は両種の形態に左右されて変異があるが、短毛を密生することが多い。

花期 4月下旬～5月下旬

スミレ



サクラスミレ



×



96. 5. 31 茅野市

2-2 チシオアルガスミレ 血潮有賀堂

Viola mandshurica var. *mandshurica* × *V. hirtipes* f. *rhodovenia*

スミレとチシオスミレの雑種。56年に諏訪市有賀で小坂忠二郎と浜栄助が発見し、地名に因んで名付けられた。花時の葉に赤紫色の斑があるのでアルガスミレより区別しやすい。赤紫色の斑には、太く濃いものから細いもの淡いものなど変異が多く、花が終わってから斑の消えるものもある。

花期 4月下旬～5月下旬

スミレ



チシオスミレ



×